

未来への遺産

北海道 世界自然遺産「知床」

知床半島は北海道の北東部に位置し、火山活動などによって形成された千五百m級の急峻な山々が連なり、切りたつた絶壁が続く、日本の中でも原生的な自然環境が残されている数少ない貴重な地域です。



知床半島空撮(斜里町提供)

ここは、北方系と南方系の動植物が混生し多くの種類の野生動植物が生息・生育するたぐい

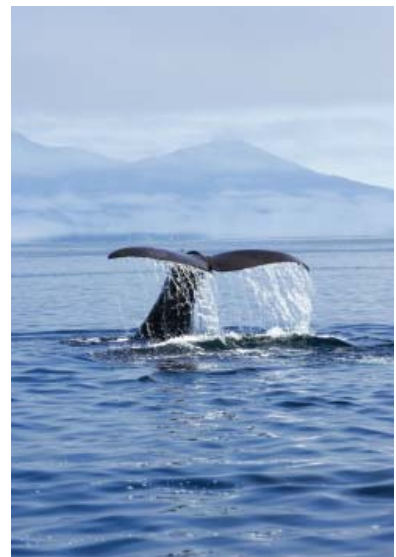
また、知床半島周辺の海域は、北半球における流水の南限域となっており、流水がもたらす栄養分によって大量に増殖するアイス・アルジー(氷に付着した藻類)などの植物プランクトンは食物連鎖の出発点となっています。



知床に漂着した流水

そして、この海と川を行き来するサケ類は、ヒグマに代表されるほ乳類やオオワシなどの猛禽類、また、アザラシなどの海棲ほ乳類の餌となるなど、海域と陸域の動植物が密接に影響しあうといった特異な生態系を形成しています。

根室海峡 国後島とマッコウクジラ(撮影者 石井輝章)



このような希少種を含む生物多様性と海と陸の相互作用を示す顕著な生態系が評価され、平成十七年七月、日本で三番目の世界自然遺産に、日本では初めて海域を含んだ地域で登録されました。

貴重な自然が残っているのは、開拓で失われた原生林の再生に向け展開されている植林活動や海岸に漂着するゴミの清掃活動など、全国の方々の温かい御支援や地域住民の熱意と努力によるものです。

今後百年先も今と変わらぬ知床であり続けるためには、自然に負荷をかけない利用に努めることが重要です。環境保全と観光の両立を目指すエコツーリズムなどを通して、知床のすばらしさをもっと多くの人々に感じていただきたいと考えています。

お問い合わせ

北海道環境生活部環境局自然環境課

TEL 〇一一―二〇四―五二二二